

家訓づくりのすすめ

一般社団法人日本想続協会

代表理事・税理士 内田麻由子

戦後、日本は経済成長と引き換えに家制度を失いました。昭和22年の民法大改正では「家督相続」から「均分相続」になり、個人の自由と権利を重視する教育が行われました。都市への人口集中と核家族化が進み、家業は衰退し、故郷は過疎化しました。「生老病死」の場は家から病院や老人ホームになり、「冠婚葬祭」の担い手も家族から専門業者になりました。

家族で力を合わせて生きることが少なくなった現代では、意識して家族の絆を紡いでいくことが大切ではないでしょうか。いざ相続のときに、兄弟の間で遺産をめぐる争うケースが増えているのも、普段の家族関係が希薄になっていることが一因であると実感しています。

そこで、家族が心をつなぐためのツールとしてお勧めしたいのが「家訓」です。家訓というと、代々続く武家や商家や家元など、由緒ある家だけのものだと思いかもかもしれませんが、そんなことはありません。今月は、家訓づくりの効用について考えます。

☆ ～ ☆ ～ ☆

●家訓とは「家族を想う気持ち」

貝原益軒といえば、約300年前に「家道訓」を著し、「収入の4分の1を貯えよ」と儉約を勧めた人として有名です。しかし益軒の説いた儉約は、ケチケチしてお金を貯め込むことではありません。「財産を多く貯えて余りがあったら、人の役に立つことに使うべきである。善を行い、人を助けてこそ、はじめてせつかく多くの財産をもっている意義があるのだ」「陰徳を行って、いつも善を心がけ、ひろく人を救うこと。そして子孫にその幸福の余りを残し、また義方の教えによって子孫の行いを正すことこそ、子孫の幸福につながるのだ」と、繰り返し善行を説いています。また、「家を治めるのに必要なのは、親子、兄弟、夫婦という三つの親族の深い愛情である」など、家族のあり方についても述べています。（斎藤茂太「人生訓 貝原益軒『家道訓』を読む」より）

家訓は決して一方的に押し付けるものではありません。益軒の「家道訓」を読むと、家訓とは「家族を想う気持ち」であり、「子孫の幸福を願う心」であることがよくわかります。

●家訓をつくって家族が変わった！

私が「家訓って素晴らしいな」と思うようになったきっかけは、浅見政資先生の著書「家訓づくりのすすめ」を読んだことでした。浅見先生は、著書の中で350もの家訓サンプルを示し、その中から家族で好きなものを選んで家訓をつくりましょう、と提案しています。たとえば「家庭円満が第一、仕事は第二」「笑いは人を呼ぶ、運も呼ぶ、笑いを絶やすな」「感謝の気持ちをいつも忘れずに生きて行こう」など、易しい言葉の家訓ばかりです。浅見先生の勧めで、実際に家訓をつくった方のご紹介しましょう（お名前はいずれも仮名）。

栃木県の鈴木さんは、亡き父が生前に家訓をつくりたいと言っていたのに実現しなかったことを思い出し、「そういえば父がこんなことを言っていたよね」と、家族で話し合いながら家訓をつくりました。「家族が感謝の言葉を自然に口に合えるようになったので、ケンカをしても、良くなるためには互いにどうしたら良いか、すぐに話し合えるようになりました。どんなときにも、良くなっていこうと家族みんなが思えるようになったので、家が明るくなりました。家訓は、いまではすっかりわが家になくってはならない大黒柱になっています」

茨城県の高橋さんは、家訓をつくった感想を次のように述べています。「家訓をつくってみて、その言葉がいつも頭から離れないのに驚かされました。『想い』のエネルギーを言葉と文字で具体的に表すことで、家族みんなのしあわせを築くという目標が、よりはっきりと見えてきました。家族が決めた目標に向かってみんなで協力し合い、努力し合いながら家族の絆を深めていくすばらしい機会を、家訓づくりをきっかけに持つことができました」

●家訓づくり3つのポイント

第1に、家訓にはなるべく「プラス言葉」を使いましょう。「〇〇するべからず」というのはマイナス言葉、「〇〇しよう」というのがプラス言葉です。「しかめっ面をするな」よりも「いつも笑顔で挨拶しよう」のほうが、声に出して読んでも気持ちがいいですね。

第2に、家訓には「易しい言葉」を使いましょう。小学生のお孫さんにもわかるような文にすれば、お孫さんにもあなたの想いが受け継がれていきます。禅語など大人向けの家訓と、それを易しくかみ砕いた子ども向けの家訓をつくってもいいですね。

第3に、家訓は「家族みんなで」つくりましょう。お正月やお盆に家族が集まったときに、あなたのつくった素案をもとに、みんなでワイワイと賑やかに相談しながらつくるといいですね。家訓づくりの目的は、家族で想いや価値観を共有することなのでありますから。

☆ ～ ☆ ～ ☆

いかがでしょうか。あなたもぜひご家族で「わが家の家訓」をつくってみませんか。家訓ができれば、教えてくださいね。